

理学療法科

科長 塩田 直隆

人員体制

2024年1月より回復期リハ病棟の施設基準を地域包括ケア病棟に変更し、一般病床14床、地域包括ケア病棟86床の入院患者と外来患者に対し理学療法士33名体制でリハビリサービスを提供した。

実績

365日より良いリハサービスを提供できる体制に努めてきた。総実施単位数は回復期病棟から地域包括病棟に変更したことで昨年と比較し減少となった。(図1)。内訳では一般で患者一人当たりの介入単位はそれぞれ平均2.5単位を提供(図2)。地域包括ケア病棟では患者一人当たりの介入は平均2.7単位のサービス提供であった(図3)。外来については1ヶ月平均580名の患者さんに対し一人当たり2.0単位のサービス提供をすることができた(図4)。感染対策により昨年と比べ入院数は減少したものの、外来の受け入れ数は増加となった。入院のリハビリ対象者の年齢別では65歳以上が84%を占め、そのうちの75歳が75%であり、90歳以上は14.7%を占めており昨年より入院する平均年齢が高くなっている(図5)。入院患者理学療法施行による診断内訳は昨年と比べ廃用症候群の介入が2割ほど増えた(図6)。

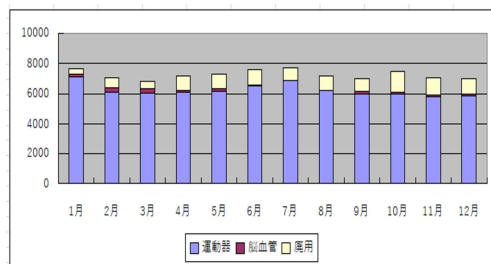


図1 リハビリ月別実施単位数

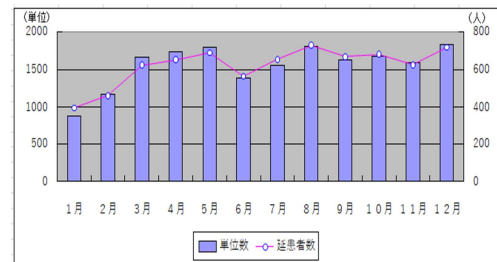


図2 一般病棟実施単位数と延患者数

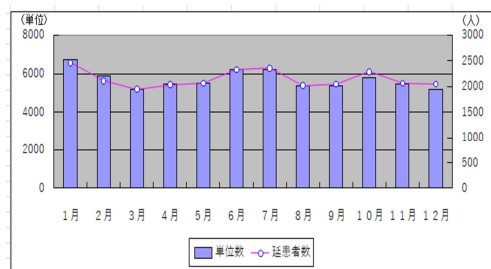


図3 地域包括ケア病棟実施単位数と延患者数

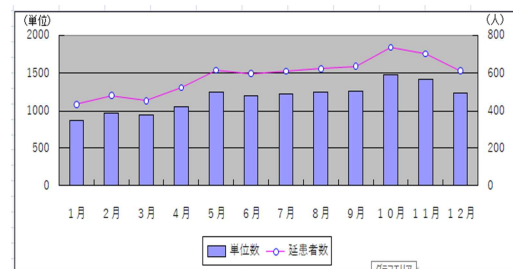


図4 外来リハ実施単位数と延患者数

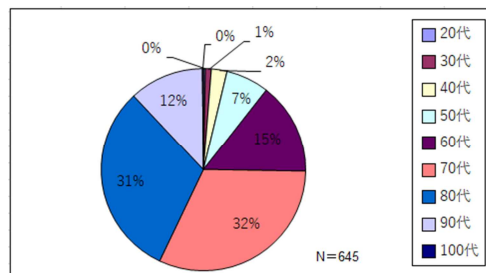


図5 年齢別内訳

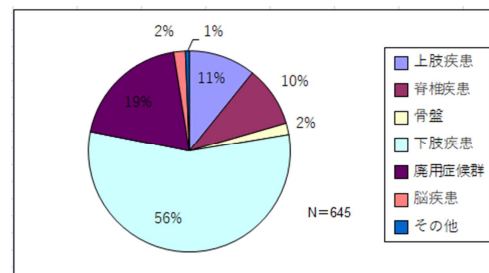


図6 疾患別内訳

2025 年度の方針

整形外科疾患を中心に様々な疾患にも対応し機能回復だけではなく社会的・生活的な側面にも考慮したリハビリテーションサービスを実施し、地域と連携して自宅に戻れるように努めていく。教育面では、個人のキャリア開発をクリニカルラダーを使用し知識や技術を共有しながら取り組んでいく。また。院内での勉強会も行いながら全体のスキルアップを図っていく。医療安全や感染対策に努めた安心・安全な医療を提供していく。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
身体知覚異常への介入により痺れの改善や歩行の再獲得に至った TKA 術後の一症例	筒井俊宏 高知医療学院 八坂一彦	第 37 高知県理学療法学会	2024 年 3 月 24 日 高知県
当院における両側同時脛骨顆外反骨切り術後経過に関する現状報告	小松 弘典 百田佐智 谷内政子 塩田直隆	第 37 高知県理学療法学会	2024 年 3 月 24 日 高知県

講演

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ